

線維筋痛症

線維筋痛症は 1970 年代に欧米でその存在が確認された疾患ですが、頑固な痛みがあるにもかかわらずあまり認識されていない疾患です。

(症状) 原因不明の多様な疼痛がおもに頸部、肩甲骨周囲、背部に始まり、徐々に全身の筋、関節などに広がる疾患です。妊娠可能な女性、特に 40 から 50 歳代の女性に多いといわれています。症状の程度は非常に個人差があるといわれています。

(診断) 3 ヶ月以上持続する全身にわたる痛みがあり、18 箇所決められている圧痛点のうち 11 箇所以上に圧痛を確認できるものとされています。また頭痛、疲労、睡眠障害などを伴う場合もあります。関節リウマチ、神経疾患などの他の痛みの原因となる病気を除外することが診断には必要です。

(原因) 原因として不明な部分が多かったのですが、脳脊髄液中の痛みを誘発する物質が増加していることや、筋肉・神経系の異常が最近指摘されています。しかしまだ分からない部分が多いのが現状です。

(治療) 通常の痛み止め（消炎鎮痛剤）は効果が無く、少し種類の違った痛み止め（ノイロトロピン）、筋弛緩剤、抗不安薬などの使用が必要です。これらの薬は効果がでるまで数週間から数ヶ月の期間が必要です。また生活指導（睡眠については昼寝禁止・早寝早起きなど、朝の散歩などの運動を行うこと）などがあります。しかし線維筋痛症に関しては特効薬がないのが現状です。この病気には患者友の会（NPO 法人線維筋痛症友の会）があります。患者様同士の交流、情報交換は治療に有効であるといわれていますので、それに参加することも良いことと思われれます。

（文責 古川）